

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	中村 太郎	学校名	新潟県阿賀町立三川中学校
担当教科等	社会科	対象学年 (人数)	中学1年 (15名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	令和2年12月～令和3年3月 (15時間)		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：総合的な学習の時間		
2. 単元(活動)名：SDGs × 地域づくり × キャリア教育		
3. 授業テーマ (タイトル) と単元目標 授業テーマ：持続可能な地域づくり (新潟県阿賀町) 単元目標：私たちがくらす阿賀町の魅力を理解するとともに、地域の抱える課題を明確にし、持続可能な地域 (SDGs：11 住み続けられるまちづくりを) とはなにかを考える。 ねらい： 1. SDGs (持続可能な開発目標) を実践しながら世界や地域の諸問題を解決するために活躍する人々の生き方や考え方を知り、自らの行動に活かしたり、自分ができる社会貢献について考えることができる。 2. 阿賀町三川地区や新潟県について理解を深め、地域の魅力を認識したり、自分にできる貢献活動を考えたりすることで、郷土愛を育む。 3. SDGs や国際協力の学習を通して、諸外国と日本、さらには自分とのつながりを実感し、地域や世界についての課題意識をもつ。 4. 地域おこし協力隊や地域住民、地域で働く人々、他地域とのかかわりの中で、新たな視点で地域を見つめ、課題を発見し、探究する力を養う。		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	SDGs を実践しながら世界や地域の諸問題を解決するために活躍する人々の生き方や考え方を知り、自らの行動に活かしたり、自分ができる社会貢献について考える。
	②思考力、判断力、表現力等	SDGs の理解を深め、地域の魅力を認識したり、自分にできる貢献活動を考え、発信していくことができる。
	③学びに向かう力、人間性等	様々なかかわりの中で、新たな視点で地域を見つめ、課題を発見し、探究する力を持つことができる。
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 総合的な学習の時間を「他者とのかかわること」で、地域の魅力を認識し、郷土愛を育んでほしい。そして、地域の魅力を発信することで生徒が「無価値」だと思い込んでいたことは「価値」あるものなのだ実感し、更なる探究につなげていきたいと考え、本単元を設定した。 【単元の意義】 「他者とのかかわり」によって、自分の地域に価値を見出したうえで、「阿賀町 (三川・阿賀の里など) を持続可能な地域としてどのようにしていくべきか？」という問いを投げかける。その問いを考えるうえで、SDGs (持続可能な開発目標) と今回の活動を意味付けることで、「自分たちの地域貢献活動はつながっている」と実感し、社会を作る主体であるという意識をもたせていくことができると考える。 【児童/生徒観】 三川中学校の生徒は自分の地域にどこか「価値がない」と思い込んでいるような様	

	<p>子が見受けられる。それは、高齢化や少子化や様々な背景が絡んでいると思うが、一番は子どもたちの郷土愛が決して高くないことが原因ではないかと思う。幼少から変わらぬ人間関係や環境などで、関わる人々が固定され、視野の広がり希薄である。SDGsに関して、言葉自体を聞いたことがない生徒が多く、自分とは関係のないものだと考えている生徒が多い。</p> <p>これらのことから「地域の魅力」と「SDGsの理解」を通して、世界の抱える問題を自分の地域の課題に落とし込んでいき、それらを解決する行動が世界を変える一歩につながるということを感じさせたい。</p> <p>【指導観】</p> <p>SDGsは自分とは関係ない。どこか遠い世界での話。自分には難しいことなのではないかという意識を変えたい。生徒にも先生方にも「そんな難しいことじゃないんだ!」「自分にもできそう!」と思えるような指導をしていきたい。そして、最終的には「地球規模の視野で考え、地域視点で行動する(Think globally, act locally)」グローバルの人材が育成を目指していきたい。</p>
--	---

6. 単元計画 (全15時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	SDGsを理解しよう	SDGsの17の目標がなぜ生まれたのか理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・30年後の世界と地域を考える ・諸外国との相互依存 	<ul style="list-style-type: none"> ・JICA資料カードゲーム
2～4	SDGsでプレゼン資料の作成しよう	SDGsの17の目標を説明するためのプレゼン資料を作成できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が調べる目標を17の目標から選ぶ ・目標の説明 問題を挙げて ・目標に取り組んでいる企業や団体、市町村など ・自分たちができること 	
5	作成したプレゼン資料を発表しよう	作成したプレゼン資料を小学校5年生に発表できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの17の目標を説明するプレゼン資料を作成 →5人×3グループに分け、発表	
6	身の回りのSDGsを見つけよう	身の回りのSDGsに関係する写真を撮影し、説明を加えて、掲示する。	① 撮影者 ② 撮影場所 ③ 撮影日 ④ 撮影した理由 ⑤ SDGsとの関係性について	
7～8	SDGsと地方創生のかかわりを理解しよう	カードゲーム「SDGs de 地方創生」を通して、SDGs×地方創生を考えることができる。	≪及川 真央さんの講話≫ <ul style="list-style-type: none"> ・福岡県北九州市出身 ・阿賀町地域おこし協力隊 (阿賀黎明高校魅力化PJ推進) ・SDGs de 地方創生公認ファシリテーター 	
9	阿賀町の魅力と課題を理解しよう	阿賀町にゆかりが深い人からのキャリア教育(職業講話)を通して、住むまちの魅力と	≪林 眞一郎 様の講話≫ <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅「阿賀の里」 ・代表取締役社 ≪阿部 貴成 様の講話≫	1.仕事の概要 2.仕事の魅力 3.仕事の上で大切なもの 4.今後の課題と展望 5.阿賀町に残して

		課題を理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・三川小中学校出身 ・工学院大学卒業 ・グラフィックデザイナー ・YouTube で地元の魅力を発信 	いきたいもの 6.子どもたちと一緒に考えて、解決してほしいもの
10	身近なSDGsの課題の解決策を考えよう！	三川中学生ができる身近なSDGsの課題を見つけ、解決策を考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの視点で現在問題となっている身近な問題を挙げる ・学級全体で話し合い、多様な意見を出し合い、自分の意見を広げる 	
11	私たちにできることを考えよう	道の駅“阿賀の里”を持続可能な地域にしていくために三川中学生にできることを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・阿賀町や三川地区の地域資源が、「地域の課題解決に貢献できることはないか」考えよう！ →子どもたちに促して・・・ 学習課題 「道の駅“阿賀の里”を持続可能な地域にしていくために三川中学生にできることは！？」	
12 ～ 14	考えた解決策のプレゼン資料を作成しよう	自分の考えた解決策を説明するためのプレゼン資料を作成できる。	前回作成したプレゼンを参考にし、「自分たちができること」を具体的な例を挙げてプレゼンを作成する	
15	作成したプレゼン資料を発表しよう	作成したプレゼン資料を村上市立荒川中学校の1年生に発表できる。	Zoomを使用し、お互いに学習の成果を発表し合う	

<p>7. 本時の展開（6時間目）</p> <p>本時のねらい：身の回りのSDGsに関係する写真を、説明を加えて作成できる。</p> <p>事前準備：・SDGsについて基礎知識を身につけておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料①を印刷して生徒に配布。 ・課題として資料①に使用する「身の回りのSDGsに関する画像」を用意しておく。 ・一人1台のタブレット端末やパソコンなどの文章作成ソフト 			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
<p>導入</p> <p>(10分)</p>	<p>これまでの活動を振り返る。</p> <p>●SDGsの説明の前に世界の課題を考える （日本ユニセフ協会「SDGs CULBより」）</p> <p>発問① 人口面から貧困や飢餓問題へ</p> <p>「世界の人口は何人ですか？」→「約77億人」 「日本の人口は？」→「約1億2000万人」 「1日1.9ドル（約210円）で暮らす人は？」 →「約7億6000万人」（子ども：3億8000万人） 「その日食べるものがない、明日以降も食べるものに不安を抱えている（飢餓状態）人は？」→「約8億2000万人」</p> <p>発問② 食品ロス・資源の問題へ</p> <p>（賞味・消費期限の過ぎた食品や傷んだ野菜の画像を提示する） 「みんなならこの食べ物、どうしますか？」→「食べない・捨てる」 「世界では1年でどれくらいの食料が捨てられているか？」→「17億トン」 ※世界で生産される食料の3分の1にあたる 「この食料をつくるためだったり、人間が開発することで1年間でどれくらいの森林が失われているでしょう？」 →「約330万ヘクタール（1分間に東京ドーム1.3個＝教室で考えると約800室）」</p> <p>発問③ 持続可能か？</p> <p>「このままの調子で暮らしていくと地球の10年後・20年後はどうなっていると思いますか？」 →「地球に住み続けることができなくなる」「限界を迎える」「取り残される人が出てくる」</p>	<p>総合的な学習のねらいと関連付けられるように導く。</p>	
<p>展開</p> <p>(85分)</p>	<p>発問③ 持続可能か？</p> <p>「このままの調子で暮らしていくと地球の10年後・20年後はどうなっていると思いますか？」 →「地球に住み続けることができなくなる」「限界を迎える」「取り残される人が出てくる」</p>	<p>〈SDGsは民主主義の結果・矛盾の産物〉 物質的な進歩主義は経済成長と公平のバランスを保てなかった！</p>	
<p>まとめ</p> <p>(5分)</p>	<p>「このままの調子で暮らしていくと地球の10年後・20年後はどうなっていると思いますか？」 →「地球に住み続けることができなくなる」「限界を迎える」「取り残される人が出てくる」</p>		

☆持続可能ではない！タイムリミットが近づいている！

● “SDGs” の内容説明（確認）

【問い】様々な格差や地球環境の課題をそのままにして、誰もが「幸せ」になれる世の中は実現できるのだろうか？

→ 「できない」「難しい」「実現不可能」など

掲示

「そこで発表されたのがこの SDGs です！」

「どのような内容だったか覚えていますか？」

→ 手を挙げてもらう



●めあてを伝える

- ① 身の回りには SDGs があふれていること理解しよう
- ② 用意してきたものをまとめ、わかりやすく人に伝えよう

●事前課題「身近な SDGs を見つけてこよう」を参考に実際につくってみよう！

【作成】

・資料①の例を参考に Word 等の文章作成ソフトを使用し、作成する

●掲示して鑑賞しよう！

【掲示・鑑賞】

・完成した生徒から掲示していく
・どのようなものを題材にしていて、「なるほどな」と共感する場を設ける。

●まとめ

【問い】「身近な SDGs を探してみてもう一度か？」

・SDGs の視点で探してみるとたくさんのモノが見つかった。
・SDGs…最初は難しい感じがしたけど、身の回りにあふれていることが分かった。
・ひとつの目標だけでなく、様々な目標がつながっていることが分かった。

生徒が事前に理解しておきたいこと

- ① 画像の挿入にやり方
- ② SDGs の 17 の目標のロゴマークの保存→貼り付け



8. 評価規準に基づく本時の評価方法

- ① 身の回りにはSDGsに関係することがたくさんあることを知ることができる。
- ② SDGsのそれぞれの目標を理解し、わかりやすく人に伝える資料を作成できる。
- ③ 友達の作成した資料を鑑賞し、SDGsについての理解を深めることができる。

【自己評価】

9. 苦勞した点	<ul style="list-style-type: none">・学期の途中から、総合的な学習の時間に組み込んだため、時間的な無理が生じてしまった点。どうにか今までの総合的な学習の時間や教科にSDGsを絡めて考えていったが、計画通りには進まなかった。・SDGsを「ジブンゴト」にするための授業構成。生徒たちは地域の課題とSDGsのかかわりは理解できたようであるが、世界・地球規模にまで広げて考えるレベルまでには到達することができなかった。・国際理解、国際貢献の必要性の伝え方が難しかった。・授業実践を他の教員と共有すること。
10. 改善点	<ul style="list-style-type: none">・1学年1クラスであるため、状況（授業の進行具合）に応じて弾力的な時間割編成が可能であったが、複数クラスの場合であったら不可能に近いので入念な計画が必要。・自分一人が頑張るのではなく、地域の資源や人材、JICAの協力を積極的に仰いでいくべきであった。特にJICAの出前授業講座など。・地域貢献活動から国際協力にまで広げることができなかったため、どのようにしたら地球規模まで考えることができるか再考の必要がある。・教員主導で進めていくことが多かったため、生徒自身が考え、実行していく枠組みを作っていく。
11. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none">・授業を通して生徒に伝えたかった・目指したことである3つ目標①SDGsって「そんな難しいことじゃないんだ!」「自分にもできそうじゃん!」②身の回りにはSDGsに関係することがたくさんあるんだ!③SDGsに対するアンテナを高くなった気がする! <p>は生徒の日常の様子を見てると達成できたように感じる。</p> <ul style="list-style-type: none">・「身の回りのSDGsを見つけよう」を行ったことで、地域の課題とSDGsのかかわりの理解が深まり、新たな活動に移行できたことは成果として挙げられる。
12. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<p>【第5時の小学生の感想】</p> <ul style="list-style-type: none">・SDGsという言葉やロゴは見たことあったけど、意味までは知りませんでした。今回、詳しく知れてよかったです。・これからはSDGsを意識して生活していきたいなあと思いました。・これから2030年に向けて私にできることを進んでやっていきたいです。・世界のみんなが幸せになれるように、すべての目標を達成していきたいと思いました。これからはSDGsを意識していきたいです。・ごみが落ちていたら拾ったり、募金をしたり、自分にできることから始めていこうと思いました。

	<p>【第7～8時の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs はいずれ地球の未来になっていくんだと思う。だから今のうちに、自分たちからSDGsの活動をしていくのが大切だと思った。 ・SDGsは「誰一人取り残さない」ための目標で、このカードゲームを通して、「対話」が大事だと学んだ。対話がないと何も始まらない。 ・SDGsは何かを良くしたら連鎖していくと感じたので、世界全体で達成できるよう、まずは自分の町からやっていくべきだと思いました。 ・人口の少ない阿賀町を守るためには、みんなが協力し合うことが大切だと分かりました。 ・SDGsは積み重ねが大事。 <p>【第9時の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからも持続していくように若い人たちが必要なのだと感じました。 ・周りの人からは気づける阿賀町の魅力を自分たちも気づいていきたいと思った。また、外から来てもらえるような工夫が必要だと思った。 ・三川や阿賀町の素晴らしさに気づき、多くの人に魅力を伝えていきたいと思いました。 ・都会とは違った阿賀町の魅力に気づけました。阿賀町の自然などの魅力をこれから自分たちにはどう発信できるか考えていきたいです。
<p>13. 授業者による自由記述</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の教師海外研修は国内研修ではありましたが、オンライン研修を含め深い学びの機会を提供していただきました。特に、過年度参加者の方々の知見や力強さには圧倒されることばかりで、すべてが新しい発見で充実した時間を過ごすことができました。 ・今回の研修で一番印象的だったのは「つながる」ということです。今回の実践を通して、人とつながることで今まで気づけていなかったモノが、価値ある資源に変わっていきました。自分がどうにかしなくてはと思っていたことも、地域の方やJICAの方とつながることでより広い視野で考えられるようになりました。今後は人と人をつなぐ役割、人とのコネクションを大事にしていきたいと強く思いました。

【本時で用いた資料】

身近なSDGsを見つけよう！

1. SDGsとは？

先般実施による異常気象、環境の破壊や汚染、経済系による貧困や格差の広がり、地域の紛争……。私たちが一人一人が関与しないと解決できない課題がたくさんあります。こうした課題をそのままにしておく、世界の将来はより悪い方向に進んでしまうかもしれません。

2015年9月、アメリカのニューヨークにある国連本部で「国連持続可能な開発サミット」が開かれ、2030年までに貧困を撲滅し、持続可能な社会を実現するため、17のゴール(目標)が設定されました。この17の目標がSDGsです。SDGsは Sustainable Development Goalsの略文字で、日本語では「持続可能な開発目標」と言います。



2. 課題について

SDGsに関連すると思われる写真を1枚撮影してください！(3年生:修学旅行、1・2年生:身近なモノ)→撮影後、そのデータを使用して掲示物をつくりましょう！

①撮影者 ②撮影場所 ③撮影日 ④撮影した理由 ⑤SDGsとの関係性についてを書いてもらうのでメモしておこう！

身近なSDGsを見つけよう！

(イメージ図)メモ用

写真

①撮影者: _____

②撮影場所: _____

③撮影日: _____

④撮影した理由や説明: _____

⑤SDGsとの関係性について: _____

身近なSDGsを見つけよう！



①撮影者: _____

②撮影場所: 富士急ハイランド(フードコート)

③撮影日: 9月2日

④撮影した理由や _____ このストローはプラスチックではなく、紙でつくられていました。現在、海の海洋プラスチック問題が注目されているのでこの写真を撮りました。

⑤SDGsとの関係性について: 14 陸の豊かさを守ろう
15 海の豊かさを守ろう



